

- 春の茅ヶ崎ガイドツアー「思わず『へえ〜』な歴史発見!!」
4月22日(土)に、地元から発信する旅づくり実行委員会主催のガイドツアーに案内役として協力しました。JR香川駅から七堂加藍跡碑などを巡り、民俗資料館・旧和田家まで文教大学の学生とともにまち歩きガイドを行いました。
- 浄見寺地元まつりへの参加
4月22日(土)浄見寺地元まつりの会場となった民俗資料館・旧和田家にて、周辺の史跡のガイドを実施しました。



募集

ちがさき丸ごと博物館講座(基礎編)

平成29年度秋期(10月~12月)受講生募集

住まう茅ヶ崎を一から学びませんか? 茅ヶ崎の土地のなりたちや自然環境、文献史学など、住まうまち・茅ヶ崎のことを基礎から学びたい方向けの講座です。

- 【日時】10月3日(火)から12月19日(火)までの毎週火曜日(10月10日除く) 10時~11時30分(全11回シリーズ)
- 【会場】茅ヶ崎市立図書館2階会議室ほか
- 【対象】茅ヶ崎市内在住、在勤、在学で、原則全11回受講できる方40名(先着順)
- 【申込】8月23日(水)から9月20日(水)までに、茅ヶ崎市教育委員会社会教育課(0467-82-1111代表)まで電話にて受付。



日程が合わないなど、講座を受講することができないという方のために・・・ちがさき丸ごと博物館講座の動画をウェブサイト「MaruhakuTV」にて配信しています。PC・タブレット・スマートフォンでいつでもどこでも、講座を受講することができます! 詳しくは、URL: <https://www.maruhaku.tv/> または

まるはく TV 検索

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館って何?

茅ヶ崎市の全域を屋根も壁もない博物館と見立てて、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材など、「このまち」らしさをもついろいろな事柄を幅広く選び出し、これらを都市資源と呼ぶことにしました。これらの都市資源を調査・研究し、それぞれがもっている意味や魅力を広く市民に周知する一方、それぞれを関連付けて散策や各種イベントなどで活用を図ることにより、茅ヶ崎を改めて知り、茅ヶ崎を愛する心を育み、ひいてはまち全体の活性化を図ろうとするものです。そして、都市資源は地域のかけがえのない宝物として、地域により保護され育てられていくことになります。住民が、自分たちの地域の未来のために、自分たちの考えと力で運営していく姿勢を特に重要視しています。

編集後記

今号では、関心を持った都市資源の調査のため、多くのところに取材に行ったことで、このまちの新たな一面をまた知ることができました。そして、取材中に多くの人と出会い、そこからまた新たな出会いの広がりもありました。ちがさき丸ごと博物館の活動で、多くの出会いや出会いが生まれる、そんな素敵な瞬間が今日もまたありますように——。(広報部会一同)



(愛称は「ちがさき丸ごと博物館」)



夏編

都市資源取材特集号!

まちの魅力を発信する第一人者たちにインタビューしてきました!



1	2	3
4		5
6	7	8

1・3・4・8: 湘南ポモロン取材の様子(記事は中面)
(1: きくやマルシェ、3: 齋藤牧場、4: 野崎農園 8: 湘南 富士美)
2・6・7: 茅ヶ崎の夏の風景 以上写真提供: 坂井源一氏
5: ホノルルウィーク(記事は中面)・写真提供: 茅ヶ崎市秘書広報課

注目の都市資源！！

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館では、文化や自然、産業、人材など市内のさまざまなまちの宝ものを「都市資源」と呼んでいます。今号では、「姉妹都市」「湘南ポモロン」という夏らしい、そして新しい都市資源に注目。ちがさき丸ごと博物館アクションプロジェクト・広報部会の新人記者3名が取材に行ってきました！

茅ヶ崎市の「姉妹都市」はハワイ州のホノルル市・郡です。どのような経緯を経て姉妹都市となったのか、茅ヶ崎市秘書広報課の西原さんに伺ってみました。

2014年にホノルル市・郡と姉妹都市の協定を締結。のんびりした文化(スローなライフスタイル)や気候風土が似ていること、サーフィンやフラなどハワイ文化が茅ヶ崎に根付いていること(茅ヶ崎はフラの教室も盛んで、日本で一番古い木製のサーフボードはなんと茅ヶ崎に保管されているそうです!)などが姉妹都市締結のきっかけになったそうです。「両市民がより一層きめ細かに交流し、相互理解を深める『新しい形の姉妹都市交流』を目指すとともに、将来的には様々なイベントを通して『子どもたちが異文化理解を深めるきっかけのひとつ』になる役目も果たしていきたい。また、姉妹都市を都市資源のひとつとして定着させたい」とこれからの展望を熱く語って下さいました。

また、7月1日(海開き)～8月5日(サザンビーチちがさき花火大会)に『ホノルルウィーク』が開催されるとのこと。これは、茅ヶ崎とホノルルが姉妹都市となったことにちなんで始まったもので、期間中はハワイに因んだ様々なイベントが催され、「ハワイの若大将」も上映されます。またホノルルウィークの協力店も200店舗を超え、アロハシャツを着て協力店へ行くと特典もあるのだとか。茅ヶ崎でホノルルウィークが催される一方、ホノルルでも『ホノルルフェスティバル』や『まつり イン ハワイ』に茅ヶ崎市民有志も参加し、相州神輿を担いで茅ヶ崎のPRに一役買うなど、ホノルル市民の方々にも「CHIGASAKI CITY」の名は確実に広まっているそうです。『ホノルルウィーク』で催されるイベントの日程や協力店の紹介は市の広報やHPに掲載されていますので、参加することで茅ヶ崎を再発見してみたいはかがででしょうか！(板倉)



「湘南ポモロン」をご存知ですか？神奈川県が開発した新品種のトマトで、イタリア語でトマトを意味する「ポモドーロ」と形の「ロング」から命名されたそうです。市内で初めて「湘南ポモロン」を栽培する生産者と、それを活用し魅力的な“茅ヶ崎ブランド”創りをする商品開発現場を、市農業水産課の飯田さんに案内していただきました。現在市内の湘南ポモロン生産者は、下寺尾の野崎農園の野崎寿一さんだけで、昨夏から温室栽培を始めたそうです。収穫量は他のトマトに比べると少ないそうですが実の綺麗な色を生かした赤と黄色のトマトジュース作りも考えているとのこと。「栽培は病気が出易く土壌の水管理が難しいが、知名度を上げて、植え付けも増やし収穫も倍増を目指したい」と、穏やかながら強い決意を感じました。

次に、商品開発をしている齋藤牧場・湘南 富士美・きくやマルシェに取材に行ってきました。「ちがさき牛」でお馴染みの齋藤牧場(芹沢)の齋藤忠道さんは、湘南ポモロンを使った「ちがさき牛ビーフシチュー」を6月から販売。湘南ポモロンは煮崩れしにくいので煮込みに適しているのだとか。元々レトルトの「ちがさき牛カレー」を販売していて、カレーと並ぶ人気商品を目指すとのことでした。

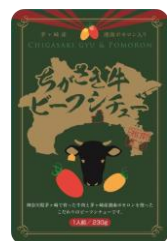
湘南 富士美(萩園)ではレッドとゴールドの2種類の「湘南ポモロンゼリー」を販売しています。お話を伺った伊與田祐一さんによると、湘南ポモロンゼリーの完成には3～4ヶ月試行錯誤したとのことでした。きれいな色を生かした商品で2種類の味を楽しめます。余談ですが、お饅頭「茅ヶ崎ぞだち」も茅ヶ崎の「湘南タゲリ米の里古代米」を使っており、地元産農産物とのコラボに注力しているとのことでした。

きくやマルシェ(矢畑)では「湘南 POMORON ジャム」の商品を販売しています。代表の白倉由果さんは、出来るだけ地元産の食材を選んで、全て手作りしているというこだわりを語って下さいました。ポモロンは水分が少なく煮詰めやすく、種も少ないので作りやすいとのこと。ジャムをいただきましたが、フルーティーでさらっとしていて、トマトが苦手な人でも食べやすいだろうと思いました。

茅ヶ崎にあふれる都市資源、さっそく市内外のお友達へのお土産にしようと思いました。(近藤)



湘南ポモロン



ちがさき牛
ビーフシチュー



湘南ポモロンゼリー



湘南 POMORON
ジャム

活動報告

ちがさき丸ごと博物館が2017年4月から6月に行った活動の一部をお届けします。

ガイド部会

まち歩き「茅ヶ崎の東海道を歩く(東編)」

ちがさき丸ごと博物館アクションプロジェクト・ガイド部会では、ちがさき丸ごと博物館講座(基礎編)の修了生がさらに学ぶ場として、ガイド研修を行っています。今回は10名の受講生が「茅ヶ崎の東海道」について学んできました。約4か月に亘って研修・自主学習を積み重ねてきた受講生が、5月9日(火)開催のまち歩き「茅ヶ崎の東海道を歩く(東編)」で市民の皆さんに茅ヶ崎の都市資源についてガイドを行いました。当日は、旧寛永寺石燈籠(市役所旧庁舎前)を出発し、社寺や史跡を訪ねながら、泪橋(東小和田交差点付近)まで約4kmの道のりを歩きました。各ポイントで解説をした受講生の皆さんは、研修で積み重ねてきた成果を発揮することができました。

出発時に江戸時代の東海道沿いの村について解説



ガイド研修修了式

5月23日(火)ガイド研修の修了式を行いました。ちがさき丸ごとふるさと発見博物館館長(社会教育課長)から修了証を授与され、修了生の皆さんも達成感でいっぱいの様子でした。

ガイド研修では、市民で構成されるアクションプロジェクト・ガイド部会の皆さんが、これまでのノウハウを活かし講師役となりました。「市民から市民へ」という学びのサイクルが築かれています。



丸博友の会

ちがさき丸ごと博物館友の会 春の講演会 & 自主学習会

ちがさき丸ごと博物館講座(基礎編)の修了生による同窓会的組織「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館友の会」が、5月10日(水)に春の特別講演会と題し、みんなで集まる会を設けました。講座(基礎編)の民俗学講師である、文化資料館の須藤学芸員に“お雑煮”を切り口に茅ヶ崎の民俗学についてお話をいただきました。

35名の参加があり、講演会の後は、会員同士で近況報告をしたり記念撮影をしたりと会員の交流を図りました。



また、6月16日(金)には第6回自主学習会を開催しました。7月17日(祝・月)に行われる浜降祭に向けて、ちがさき丸ごと博物館友の会の有村会長が講師役となって、参加した32名の会員の皆さんに「浜降祭を何倍も楽しむ方法」をお話ししました。浜降祭の歴史に始まり、神輿の見方、浜降祭当日の見どころなどの解説が行われました。ゲストに「藤若会」から山口さんと加藤さんを迎え、神輿の担ぎ方の実演もいただきました。最後はみんなで甚句に合いの手をいれて、三本締めで学習会を終了しました。